

# ハイブリッドリモニウムに適した施肥管理技術の確立

～ ‘シンジーシルバー’ は追肥を多くして品質アップ～

## 1. はじめに

ハイブリッドリモニウムは、農業試験場暖地園芸センターが無加温ハウスで栽培できる花きとして見いだした新規品目で、花色がピンクの品種‘シンジーシルバー’は収量が多いことがわかっている。しかし、新規品目であるため、最適な栽培管理は明らかではない。そこで、農業試験場では施肥の違いによる収量、品質への影響について検討した。



図1 ‘シンジーシルバー’

## 2. 材料および方法

ハイブリッドリモニウム‘シンジーシルバー’（ムラカミシード株式会社）を2019年9月11日にうね幅120cm、条間40cm、株間40cmの2条千鳥植えで無加温ビニルハウスに定植し、2020年8月5日まで採花・調査を行った。

試験区の構成は表1のとおりとし、試験区①、②では基肥に有機配合(6-6-6)を、③ではロング413の360日タイプ(14-11-13)を施用し、追肥にはOK-F-1(15-8-17)を用い、1回当たり0.65～1kgN/10aを試験区①、②では11月14日から、③では6月16日から施用した。

表1 各試験区の施用資材と施用成分量

試験区	施用資材		施用成分量 (kg/10a)					
			基肥			追肥		
	基肥	追肥	窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ
①7N+10N	有機配合	OK-F-1	7.0	7.0	7.0	9.8	5.2	11.1
②7N+15N	有機配合	OK-F-1	7.0	7.0	7.0	15.0	8.0	17.0
③ロング	ロング413-360	OK-F-1	20.0	15.7	18.6	2.0	1.1	2.3

## 3. 結果

総収量は、試験区①で48.5本、②で50.1本、③で49.5本となり、顕著な差はなかった。時期別では、各試験区とも5月が最も多かった(図2)。

5月の切り花品質を比較すると、追肥量が多い試験区②で最も切り花長が長く、茎径が太くなり、品質が優れていた(表2)。

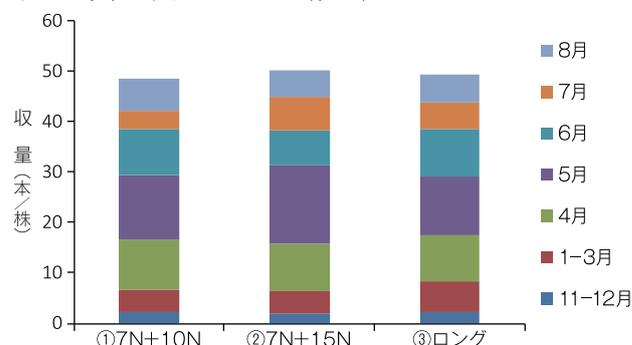


図2 施肥の違いが時期別収量に及ぼす影響

表2 施肥の違いが切り花品質に及ぼす影響

試験区	切り花長 (cm)	茎径 (mm)
①7N+10N	58.7 ± 5.5	4.5 ± 0.7
②7N+15N	61.2 ± 6.0	5.0 ± 0.7
③ロング	56.5 ± 6.5	4.2 ± 0.7

数値は5月の切り花の平均値±標準偏差

## 4. おわりに

‘シンジーシルバー’は、追肥量を多くすることで、収量が増加する春以降の品質を向上できる可能性が示された。ハイブリッドリモニウムは、株を植え替えずに複数年栽培することが可能であるため、今後は2年目以降の施肥管理についても検討する予定である。

(環境部 小川大輔)